

第1回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会 議事概要

日時：令和4年10月18日（火） 13時30分～15時00分

場所：三内丸山遺跡センター 体験工房

出席委員：稲葉委員長、水ノ江委員、根岸委員、石崎委員、森委員、西村委員

出席者：文化庁文化資源活用課鈴木調査官、松丸係員、松下係員
縄文遺跡群世界遺産協議会広域委員・管理委員

概要：

1. 開会

2. 確認事項

（1）縄文遺跡群世界遺産専門家委員会について【資料1】

質疑はなし。

（2）第1回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会の検討事項について【資料2】

質疑はなし。

3. 報告事項

（1）イコモス勧告及び世界遺産委員会決議への対応について【資料3】

○勧告b)の不適格工作物の撤去等について、緊急性の高いもの、優先順位、撤去等の年限、全体の戦略等がわかる資料を次回専門家委員会で示すこと。

（2）包括的保存管理計画の改訂等について【資料4】

質疑はなし。

（3）経過観察年次報告書について【資料5】

○2020年度経過観察年次報告書は、遺産全体に関する負の影響だけでなく、正の影響も含めて総括をされており、他のモデルケースになるような、よい経過観察がされている。

○経過観察と関連して、包括的保存管理計画とともに策定した「北海道・北東北の縄文遺跡群保存活用推進行動計画」で示した内容の実施状況について、評価・総括すること。

（4）縄文遺跡群の来訪者数について【資料6】

○来訪者数の把握だけでなく、来訪者の行動パターン、満足度・理解度等を把握するための来訪者動向調査のあり方について検討すること。

（5）縄文遺跡群の遺跡ガイドの状況について【資料7】

質疑はなし。

（6）令和4年度縄文遺跡群世界遺産本部事業について【資料8】

質疑はなし。

4. 意見交換：縄文遺跡群の保存・活用について

- 縄文遺跡群のストーリーを上手く伝える。構成資産でない遺跡も大きなストーリーの中に位置付けられるため、一緒に重要な構成要素としてプレゼンテーションできるといい。
- 来訪者の意見を聞いていくのは重要。それと、地域の方たち、一緒に生活している方たちの意見も上手く双方向で取り入れ、何か良い方向に繋げていけたらいい。
- 発掘調査は、OUVを付け足していくことになる。発掘調査をパッケージ化して、世界遺産ではない遺跡にも良い影響を与えるようになるといい。
- ジュニアボランティアガイドが、ガイドを越えてインタープリターとして育っていくような仕組みがこれからできるといい。
- 寒冷地の遺跡保存は難しいテーマだが、17 遺跡で総合的に見ていくと、どのような保存方法が一番望ましいか分かる。保存対策を提案していけば、他の遺跡にとってもプラスになる。
- 地元に暮らす我々にちゃんと根付いていくような世界遺産に、まちづくりに、この構成資産だけではなく、他にもたくさんある縄文遺跡も含めて地域の資産になればいい。
- 風力発電、太陽光パネルが目立ってきている。縄文遺跡は土の中だけではなくて眺望も重要なので、遺産影響評価の事後のマネージメントもやっていけるといい。
- 世界は成功事例を求めている。世界の成功事例の情報を集めるのも大事だが、縄文遺跡群のこれまでの取組内容を世界に情報発信していくといい。
- 17 遺跡で一つの世界遺産であるため、各遺跡の特徴、残り 16 遺跡とのつながりについて、ガイドやガイダンス施設で示していく必要がある。
- 世界遺産になった以上、世界に対して保全管理を約束したことになるため、遺産影響評価が大変大事なプロセスになる。この先、緊急事態がいろいろ発生してくると思うが、最後まで責任持たなければならないため、委員会と協議会、本部とが連携を保ってやっていくことになる。

以上